

## 経済財政政策部局の動き

## 世界経済の潮流2023年Ⅱについて

内閣府政策統括官(経済財政分析担当) 付  
参事官(海外担当) 付

細江 僚汰

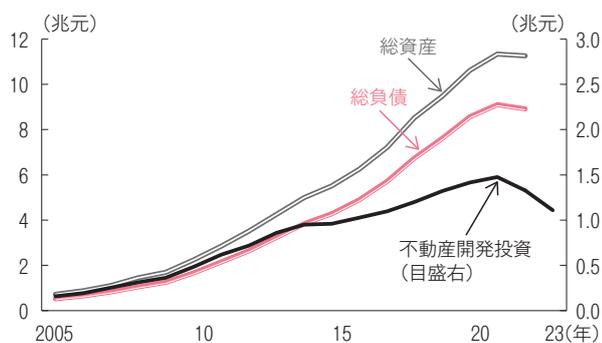
本稿では、2024年2月28日に公表した「世界経済の潮流2023年Ⅱ—中国のバランスシート調整・世界的なサービス貿易の発展<sup>1</sup>」のポイントを紹介する。

## 1. 中国の景気とバランスシート調整

中国では、2023年後半には景気の持ち直しの動きに足踏みがみられた。低成長が続く背景にある不動産市場の停滞は、一過性の景気要因ではなく構造問題である。

2020年に不動産融資規制が導入された後、2021年には地方都市を中心に住宅価格のピークアウトがみられ、2022年には不動産企業の総資産・総負債の減少がみられた(図表1)。不動産企業の資金繰りが悪化し、借入の返済等を優先する必要がある中で、新規の不動産開発投資は大幅に減少している。2021年以降は、不動産企業の資産の減少・資金繰りのひっ迫を受けて、企業が負債の圧縮を優先し、投資等の前向きな経済活動を抑制する状況、いわゆる「バランスシート調整」が始まった可能性がある。

図表1 不動産企業のバランスシート



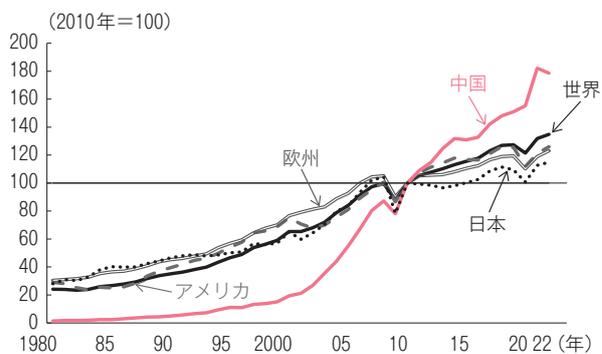
(備考) 中国国家统计局より作成。

不動産市場の停滞は、土地所有権譲渡収入の減少を通じた地方政府の財政収支の悪化や、家計消費の抑制に波及しており、長期化が懸念されることから、抜本的な措置(例えば、不動産企業のプロジェクト単位の政策的支援、不良債権の処理、金融機関の資本増強、地方政府の財政基盤の強化(税源移譲)等)が早急に打ち出される必要がある。

## 2. 世界の貿易・投資構造の変化

世界全体の財貿易量は、1980~2008年には年平均5%台で拡大したが、2010~2022年は年平均2.6%に減速した(図表2)。財貿易量の伸びがGDP成長率を下回る「スロートレード」現象の背景には、アジア諸国の国内産業の高度化による資本財生産等の内製化の進展がある。

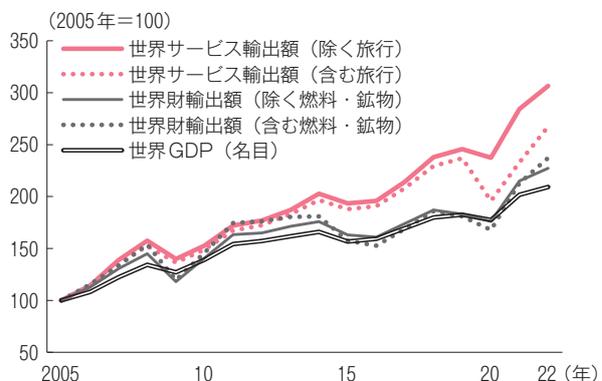
図表2 世界の財貿易量の推移



(備考) WTO Statsより作成。輸出量。

一方、世界全体のサービス輸出額の伸びは、名目GDPや財輸出額の伸びを大きく上回る、安定的な増加傾向となっており(図表3)、成長の新たなけん引役となりつつある(2022年の名目ベースでの世界GDP成長率3.8%のうち、サービス輸出の寄与度は0.9% pt)。

図表3 サービス輸出額(名目)の世界的な動向



(備考) WTO、IMFより作成。

サービス輸出は、サービス部門に競争力のある国においては伸び率が高い。他方、データローカライゼーションを始めとしたデータ流通規制は、今後サービス貿易の伸びを抑制する可能性がある点には留意が必要である。

こうした貿易動向等の変化を踏まえ、各国では、従来の財中心の貿易からサービス貿易のフロンティアを開拓し、(1)各国の競争力を活かしたサービス輸出とともに、(2)サービス輸入を活用して他国の競争力を取り込み、自国の経済活動の生産性向上や高付加価値化を進めていくことが望まれる。

細江 僚汰 (ほそえりょうた)

1 [https://www5.cao.go.jp/j-j/sekai\\_chouryuu/sa23-02/sa23.html](https://www5.cao.go.jp/j-j/sekai_chouryuu/sa23-02/sa23.html)